令和８年度第２回富山県野生鳥獣保護管理検討委員会　議事録

１ 日　時　令和８年９月３日（木）14 時 00 分～16 時 00 分

２ 場　所　富山県農協会館 802 号室

３ 出席者　大井徹委員長、赤座久明委員、河島節郎委員、豊川和人委員、長谷川幹夫委員、林克裕委員、東出大志委員、丸之内美恵子委員、山口拓志委員、山本茂行委員、和田直也委員
（委員名は五十音順）

４ 議事概要

(1) 第二種特定鳥獣管理計画の策定について（ツキノワグマ、ニホンジカ、カワウ、カモシカ）

〇富山県ツキノワグマ管理計画

（委員）
個体数の推定や自然増加率については、県内の調査結果を踏まえて検討することが重要である。捕獲目標についても、今後の調査結果を確認しながら、適宜見直していくことが望ましい。

（事務局）
地域個体群単位での管理が重要と認識している。今後、国の調査結果や広域的な協議の状況を踏まえ、必要に応じて計画を見直していきたい。

（委員）
捕獲目標の考え方に加え、ゾーニングの範囲や評価項目についても、具体的な運用が分かるよう整理が必要である。また、侵入防止柵などの被害防止対策も計画に位置付けてはどうか。

（事務局）
ご意見を踏まえ、ゾーニングや評価方法、被害防止対策に関する記載を整理したい。

（委員長）
個体数の推定値だけでなく、人身被害や出没状況など、地域の実情を把握するためのモニ

タリングも重要である。いただいた意見を踏まえ、計画への反映を検討されたい。

〇富山県ニホンジカ管理計画

（委員）
生息状況や被害の変化を継続して把握するとともに、捕獲だけでなく、植生の保全や防除についても検討する必要がある。

（事務局）
重要な植物群落の把握を含め、被害状況に応じた保全対策について検討していきたい。

（委員）
県境を越えた個体の移動も想定されるため、関係機関と連携した広域的な管理が必要である。また、捕獲目標の達成に向けた具体的な方策も検討してほしい。

（委員長）
捕獲を推進するための方策と、希少な植物を含む植生の保全について、計画に反映できるよう検討されたい。

〇富山県カワウ管理計画

（委員）
　例えばサギ類もコロニーを作り、近隣住民から苦情が寄せられることがあるかもしれない。コロニーを作る鳥類には、カワウのほかにサギ類もいるが、両者の間で線引きをして、カワウについては対応し、サギ類については対応しないという計画になっているのか。

（事務局）
　基本的に、この管理計画はカワウのみを対象としているが、アオサギなどによる被害についても個別に報告は受けている。そちらについては、通常の許可捕獲、いわゆる有害鳥獣駆除という形で対応しているのが現状である。

〇富山県カモシカ管理計画

（委員）
　植物の食痕などから、「これはカモシカによるもの」「これはニホンジカによるもの」と区別ができれば、それぞれに応じた個体数調整や対策につなげられると思うが、そのよう

な区別は可能なのか。

（事務局）
　シカによる下層植生の被害調査の際にも確認しているが、見た目、つまり葉の食痕だけでシカかカモシカかを区別するのは、なかなか難しいと認識している。
　そのため、シカについては、樹皮の剥皮があることをもって、ニホンジカによる被害と判断している。

（委員）
　林業被害に関する記述は、確認されている状況に沿った表現とすることが望ましい。